

# かえで支隊防災通信

第29号  
発行  
かえで支隊

## 「自主防災組織新任班長講習会」受講レポート

去る6月30日(土)、町田市主催の標記講習会に参加、下記3講座の内①を受講しました。(大半の受講者が①を受講)

- ① 本部情報班(地震に関する基礎知識、避難行動に関する講義等)
- ② 応急給水班(備蓄物資に関する講義、資機材運用訓練)
- ③ 消火・救出班(初期消火に関する講義、AEDを用いた救命訓練)、

講義内容は「自主防災組織のてびき」に沿って行われ、その要点は以下の通りです。

### I. 町田市における地震被害の想定

- 1. 多摩直下地震(立川断層)、季節は冬、想定規模M7.3、震度6強～6弱を想定。
- 2. 被害想定: 死者67名、負傷者4,278名、焼失棟数3,443棟、  
全壊建物3,931棟、避難者数92,758名。

特に強調していたのは、6月の大阪北部地震で屋内の家具転倒・ブロック塀倒壊による死者が出たことです。震度6クラスの地震では、建物被害が無くとも殆どの家庭で屋内被害が発生する。写真のような状況では一時的でも避難が必要です。



また、路上におきましても、建物壁面からの落下物、電線の切断・垂れ下がりによる感電、ブロック・石積み塀の倒壊、等による危険を想定し、普段から使用頻度の高い道順における危険個所をよく確認しておくことも重要です。

(裏面に続く)

## Ⅱ. 避難誘導について

避難誘導は、自主防災組織の主たる任務の一つですが、次の 2 点の必要性について説明がありました。

- ① 移動困難者（要介護者・身体障害者・病人・けが人・その他）等、避難に支援が必要な人に対する実態把握、支援体制構築（機密扱い）
- ② ペット等に関する実態把握、「同行避難」体制の構築・避難訓練

### ① について

「かえで支隊」では平成 27 年に「防災アンケート」を実施しましたが、その際「避難時支援を希望」と回答した世帯が 1 割弱ありました。匿名アンケートでしたので希望者名は把握できていません。

この問題は、プライバシーに関わるデリケートな問題ですので、実際はもっと多くの世帯に「要支援者」が存在するのではないかと考えられます。

他の支隊では、「要支援者」別に「管理台帳」（実名）を作成し、支隊長の責任で極秘管理されていますが、「かえで支隊」は取組が遅れています。

今後、皆様の意向を踏まえながら、早急に「かえで支隊」としての取組を検討したいと思えます。

### ② ついて

町田市による推定では、約 2 割の世帯でペット（犬、猫のみ）が飼育されており、無視できない問題です。

避難施設（かえで支隊は小川高校）におけるペットの受け入れ可否は、その時の実情（避難者数、スペース等）に応じて決められるので、場合によって「受け入れ不可」若しくは「あふれる」ことも想定しておく必要があります。

「同行避難（含む訓練）」は自主防災隊の役割ですが、避難施設における管理・運営は、飼い主同士の自主的運営に任されることとなります。

※参考までに、

「災害時における要配慮者把握マニュアル」（抜粋）と、「災害時のペット対策」（回覧用資料）を添付します。今後、アンケートを実施する際の参考資料となりますので、これらの資料は「要保存」でお願いします。

以 上